

京丹後市学校施設の長寿命化計画
(学校施設の個別施設計画)

令和3年3月

京丹後市教育委員会

目次

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的	1
1. 計画の背景及び目的	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画期間	3
4. 対象施設	3
第2章 学校施設の目指すべき姿	4
第3章 学校施設の実態	5
1. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	5
(1) 対象施設の一覧	5
(2) 児童生徒数及び学級数の推移	6
(3) 学校施設の配置状況	7
(4) 施設関連経費の推移	8
(5) 学校施設の保有量	9
(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）	10
2. 学校施設の老朽化状況の実態	11
(1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価	11
(2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）	19
第4章 学校施設整備の基本的な方針等	20
1. 学校施設の規模・配置計画等の方針	20
(1) 学校施設の長寿命化計画の3つの基本方針	20

(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針	21
2. 改修等の基本的な方針	22
(1) 長寿命化の方針	22
(2) 予防保全の方針	22
(3) 目標耐用年数の設定	22
第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	24
1. 改修等の整備水準	24
2. 維持管理の項目・手法等	25
第6章 長寿命化の実施計画	25
1. 改修等の優先順位付けと実施計画	25
2. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	28
第7章 長寿命化計画の継続的運用方針	30
1. 情報基盤の整備と活用	30
2. 推進体制等の整備	30
3. フォローアップ	30

第 1 章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的

1. 計画の背景及び目的

全国的に高度経済成長期の昭和 40 年代から 50 年代にかけて児童生徒数が急激に増加し、これに対応するための学校施設を集中的に整備してきました。それから 40 年以上が経過する現在、施設の老朽化が深刻な問題となっており、安全安心な学校教育環境を維持するための計画的な対策が求められています。

京丹後市では令和 2（2020）年度現在、小学校 17 校、中学校 6 校、網野学校給食センター（共同調理場）1 施設を有しています。これらの学校施設は、将来を担う児童生徒の学習・生活の場であるとともに、地域の交流の場でもあり、さらには地震等の災害時における地域の避難所としての役割も担っています。

一方で全国的には少子高齢化・人口減少社会が進展してきており、本市においても年少人口及び生産年齢人口が減少し、老年人口は増加していくことが予測されています。さらに人口構造の変化に起因し、将来的に市税収入の減少や扶助費等の義務的経費が増大し、財政状況は厳しい状況に直面するものと予測されており、本市が保有する多くの公共施設等の維持管理・更新等に要する費用負担は、今後の行財政運営における大きな課題となっています。特に学校施設は修繕等を含む日常の維持管理だけではなく、教育環境の質的改善のための整備も必要不可欠ですが、これら学校施設の建替えや改修には多大な財源の確保が必要になります。

このような背景を踏まえ、学校施設の実態把握及び分析を行い、本市の実情に即した基本的な整備方針や施設整備の水準について示すとともに、長寿命化の観点から中長期的な財政負担の低減及び平準化を図り、社会情勢の変化やニーズの多様化に配慮した今後の学校施設の維持管理・更新等を着実に推進することを目指します。

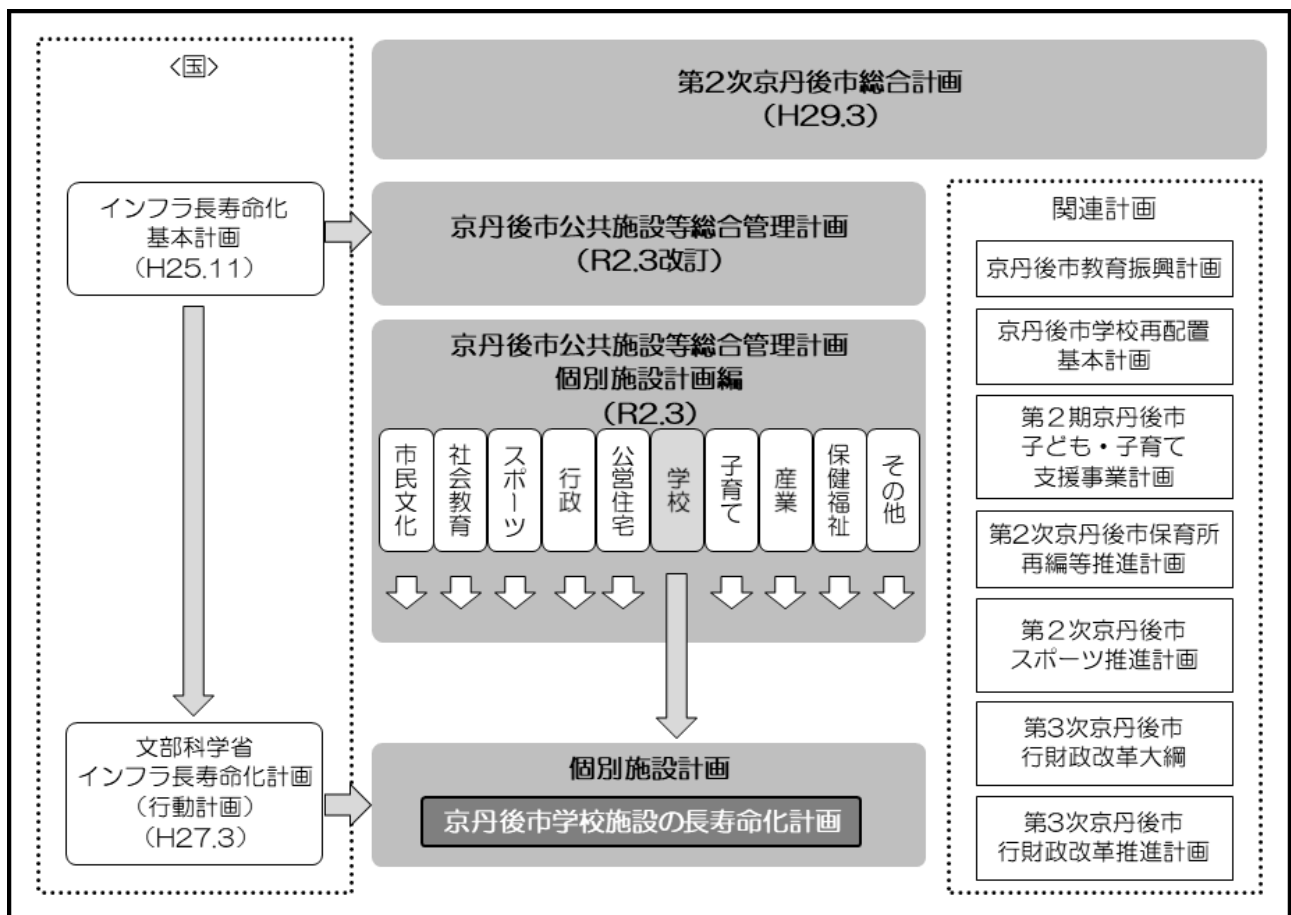
2. 計画の位置づけ

本市が保有する公共施設等に関する現状と課題を分析して、効率的かつ効果的な維持修繕の実施による施設の長寿命化や保有量の最適化を推進するため、「京丹後市公共施設等総合管理計画」（令和2年3月改訂）を策定しており、その中で学校教育系施設の今後の方針としては「学校施設は、学校教育だけでなく地域にとっても、防災や連帯感も醸成する重要な施設のため定期的な検査を実施し、予防的な維持補修を行うなど長寿命化を図る対策を検討してま

す。」（抜粋）とされていることから、その方針に基づき、着実に推進する中長期的な取組みの方向性を示す個別計画として本計画を位置づけています。

また、国・府の関連計画を踏まえるとともに、「第2次京丹後市総合計画」の基本理念等に連携し、市の関連計画との整合を図ります。

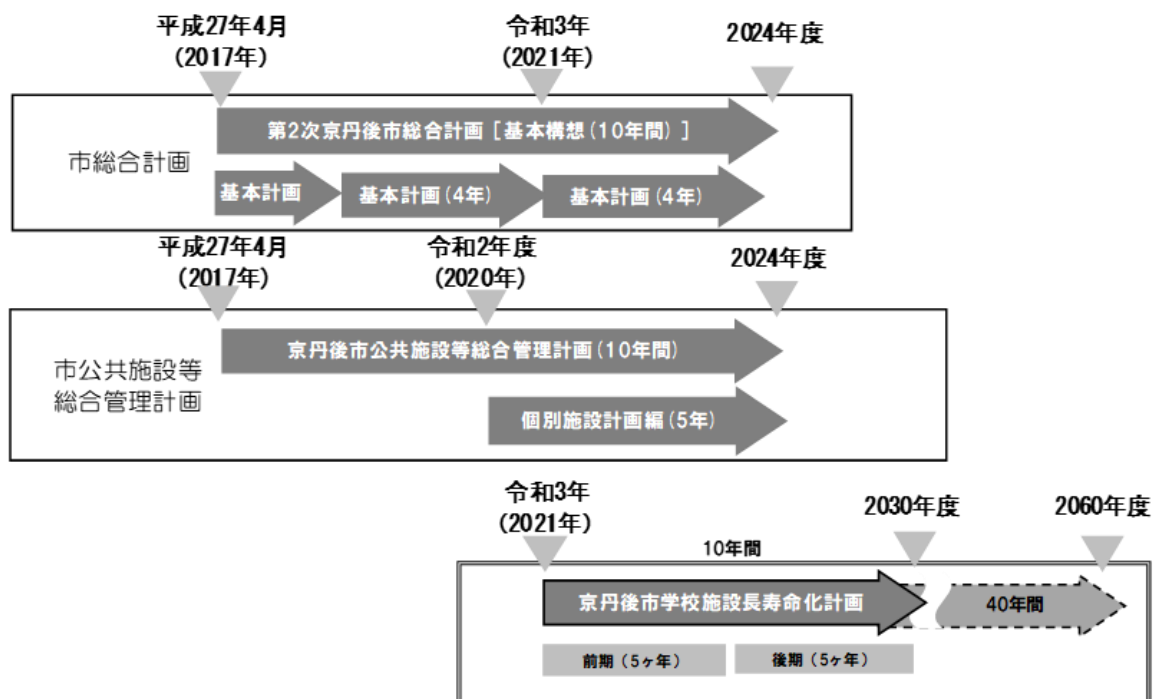
図 1-1 京丹後市学校施設の長寿命化計画の位置づけ



3. 計画期間

計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間とします。今後、学校施設が一斉に大規模改修や更新期を迎えるため、長寿命化計画により、トータルコストの縮減や平準化を図り、部位別や学校別の優先順位を考え、令和3年度から10年間の長期方針と、前期・後期の5年ごとの具体的な整備計画をたてることとします。なお、今後の学校施設の維持・更新コストについては、長期的な視点が必要となるため、40年間を試算期間として設定します。

図 1-2 計画期間



4. 対象施設

本計画の対象施設は次のとおりとします。

学校教育施設	施設数	
小学校	17 校	適正配置及び再配置を今後検討
中学校	6 校	
学校給食共同調理場	施設数	
学校給食センター	1 施設	京丹後市学校給食施設整備調査等を基に設置数は今後検討

第2章 学校施設の目指すべき姿

本市の学校施設の目指すべき姿は、文部科学省の設置する「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」における「学校施設整備基本構想の在り方について」（平成25年3月）での「学校施設の目指すべき姿」に基づき、次のとおりとします。

1. 安全性 ○災害対策 ・地震に強い学校施設 ・津波・洪水に強い学校施設 ・防災機能を備えた学校施設 ○防犯・事故対策 ・安全で安心な学校施設 2. 快適性 ○快適な学習環境 ・学習能率の向上に資する快適な学習環境 ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校 ・バリアフリーに配慮した環境 ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ○教職員に配慮した環境 ・教職員に配慮した空間 ・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なICT環境 3. 学校活動への適応性 ○主体性を養う空間の充実 ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間 ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ・社会性を身につけるための空間 ○効果的・効率的な施設整備 ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境 ・各教科等の授業を充実させるための環境 ○言語活動の充実 ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間 ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境	3. 学校活動への適応性（続き） ○理数教育の充実 ・充実した観察・実験を行うための環境 ○運動環境の充実 ・充実した運動ができる環境 ○伝統や文化に関する教育の充実 ・伝統や文化に関する教育を行うための環境 ○外国語教育の充実 ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間 ○学校図書館の活用 ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境 ・地域に開かれた学校とするための環境 ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設 ○キャリア教育・進路指導の充実 ・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境 ○食育の充実 ・食育のための空間 ○特別支援教育の推進 ・バリアフリーに配慮した環境 ・自閉症、情緒障害又はADHD等のある児童生徒に配慮した学校施設 ○環境教育の充実 ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール 4. 環境への適応性 ・環境を考慮した学校施設（エコスクール） 5. 地域の拠点化 ・安全で安心な学校施設 ・バリアフリーに配慮した環境 ・地域に開かれた学校とするための環境 ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設
---	---

第3章 学校施設の実態

1. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設の一覧

(令和2年5月1日現在 学校基本調査より)

施 設 名		住 所	延床 面積 (㎡)	建 築 年度	児童生徒数 (人)		学級数 (学級)	
					通常学級 在籍者数	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小 学 校	峰山小学校	峰山町不断 1 番地	6,262	S39	121	4	8	2
	いさなご小学校	峰山町安 9 番地	4,199	S54	175	4	10	2
	しんざん小学校	峰山町荒山 1300 番地	3,703	H1	197	4	9	2
	長岡小学校	峰山町長岡 60 番地	2,916	S56	61	3	7	1
	大宮第一小学校	大宮町周枳 1552 番地	6,697	S47	404	11	19	3
	大宮南小学校	大宮町奥大野 72 番地	3,920	S55	102	2	7	1
	網野北小学校	網野町浅茂川 1861 番地	7,477	S57	171	17	9	3
	網野南小学校	網野町下岡 180 番地	6,758	S58	153	6	7	1
	島津小学校	網野町島津 1251 番地	2,822	S37	59	2	7	1
	橘小学校	網野町木津 1357 番地	4,076	S63	87	6	7	1
	丹後小学校	丹後町間人 2691 番地	4,572	S55	148	4	8	1
	宇川小学校	丹後町上野 120 番地	3,522	S50	42	3	7	1
	吉野小学校	弥栄町芋野 408 番地	2,512	S52	61	4	8	2
	弥栄小学校	弥栄町木橋 558 番地	4,000	S53	135	3	8	2
	久美浜小学校	久美浜町 3369 番地	4,873	S59	107	6	8	2
	高龍小学校	久美浜町新谷 250 番地	5,307	S41	154	5	7	1
	かぶと山小学校	久美浜町神崎 1603 番地	3,511	S49	145	8	9	2
	小 学 校 計			77,127	—	2,322	92	145
中 学 校	峰山中学校	峰山町荒山 88 番地	8,570	S54	319	15	13	3
	大宮中学校	大宮町口大野 216 番地	6,792	S58	264	5	11	2
	網野中学校	網野町網野 2696 番地	8,043	S51	307	5	12	2
	丹後中学校	丹後町間人 320 番地	4,921	S39	95	3	6	2
	弥栄中学校	弥栄町溝谷 3300 番地の 1	5,673	S57	113	7	7	2
	久美浜中学校	久美浜町 640 番地	5,812	S57	204	9	9	2
中 学 校 計			39,811	—	1,302	44	58	13
学校給食センター		網野町下岡 180 番地	984	S59	—	—	—	—
共同調理場計			984	—	—	—	—	—
合 計			117,922	—	3,624	136	203	41

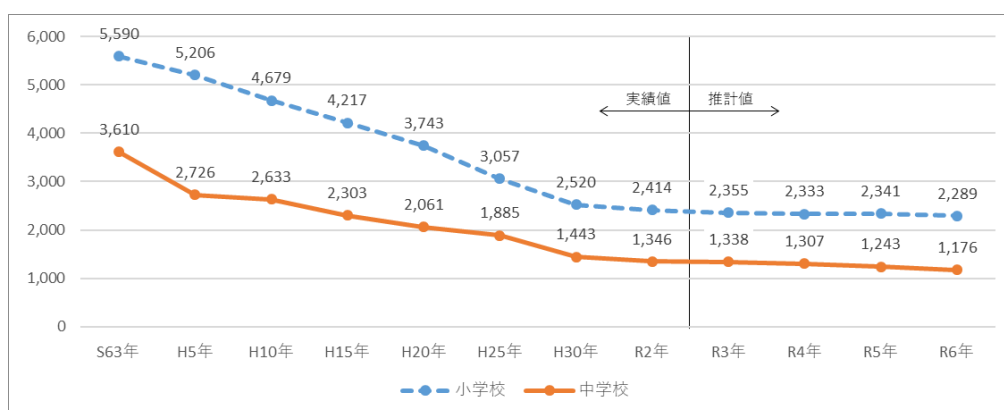
※建築年度は、学校内で（教室棟・特別教室棟など）最も古い建物の建築年度を採用

(2) 児童生徒数及び学級数の推移

■児童生徒数（小中学校別）

（単位：人）

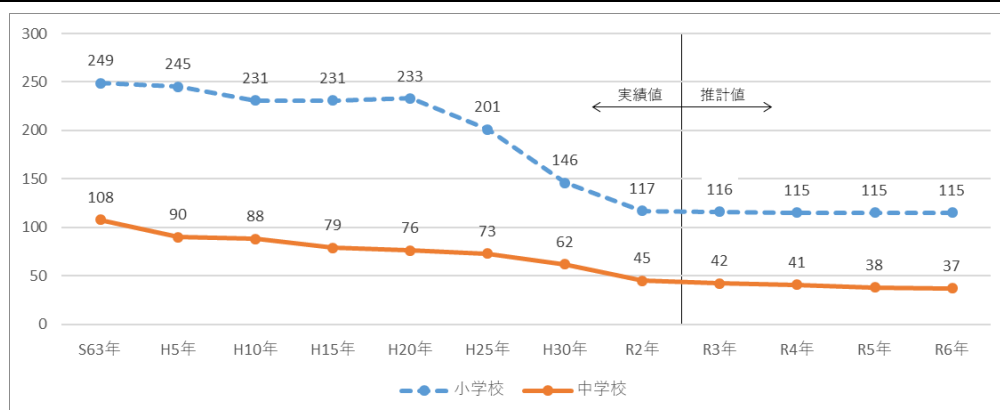
	これまでの推移								将来推計			
	S63年 (1988)	H5年 (1993)	H10年 (1998)	H15年 (2003)	H20年 (2008)	H25年 (2013)	H30年 (2018)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)
小学校	5,590	5,206	4,679	4,217	3,743	3,057	2,520	2,414	2,355	2,333	2,341	2,289
中学校	3,610	2,726	2,633	2,303	2,061	1,885	1,443	1,346	1,338	1,307	1,243	1,176
合計	9,200	7,932	7,312	6,520	5,804	4,942	3,963	3,760	3,693	3,640	3,584	3,465



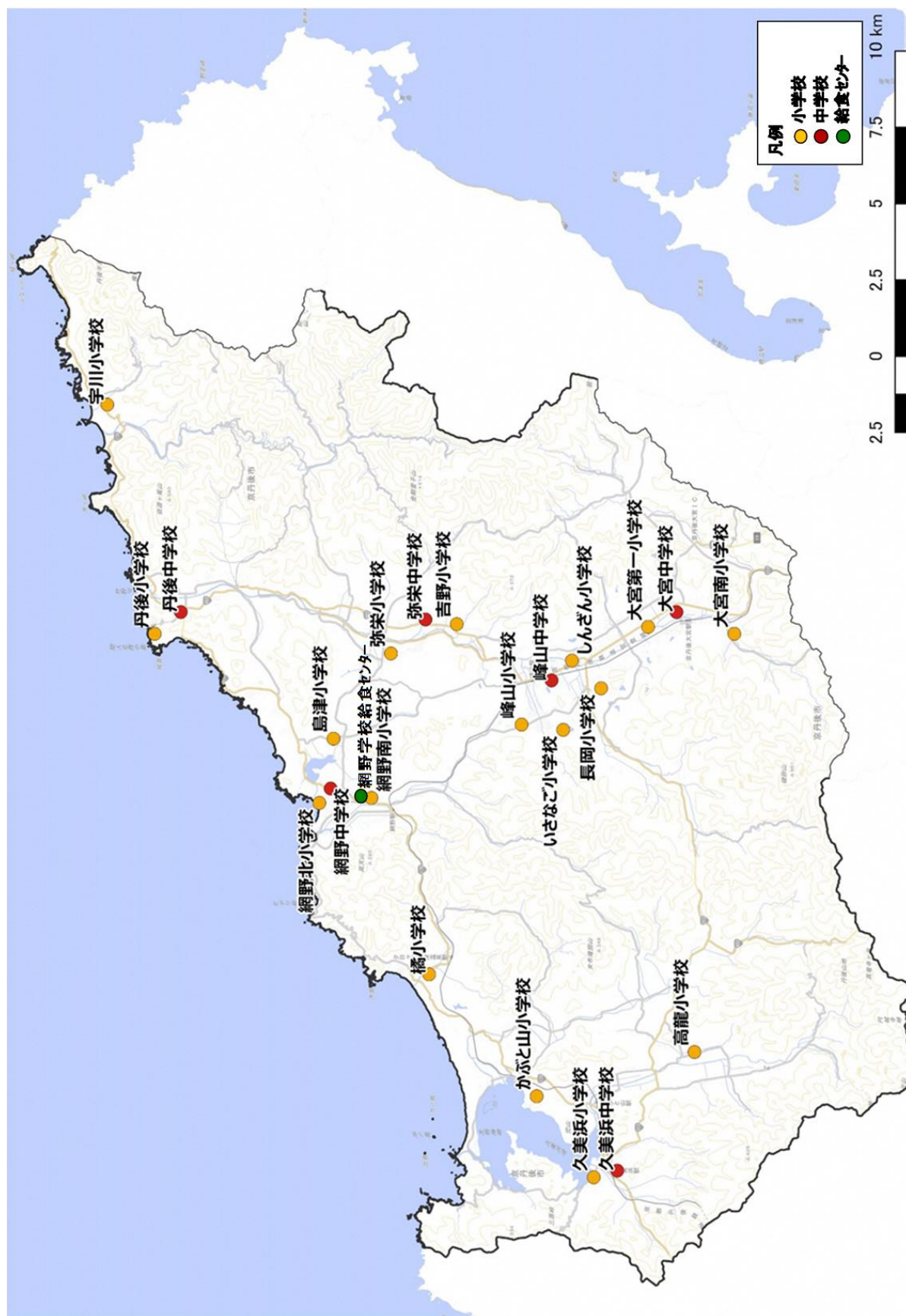
■学級数（小中学校別）

（単位：学級）

	これまでの推移								将来推計			
	S63年 (1988)	H5年 (1993)	H10年 (1998)	H15年 (2003)	H20年 (2008)	H25年 (2013)	H30年 (2018)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)
小学校	249	245	231	231	233	201	146	117	116	115	115	115
中学校	108	90	88	79	76	73	62	45	42	41	38	37
合計	357	335	319	310	309	274	208	162	158	156	153	152



(3) 学校施設の配置状況



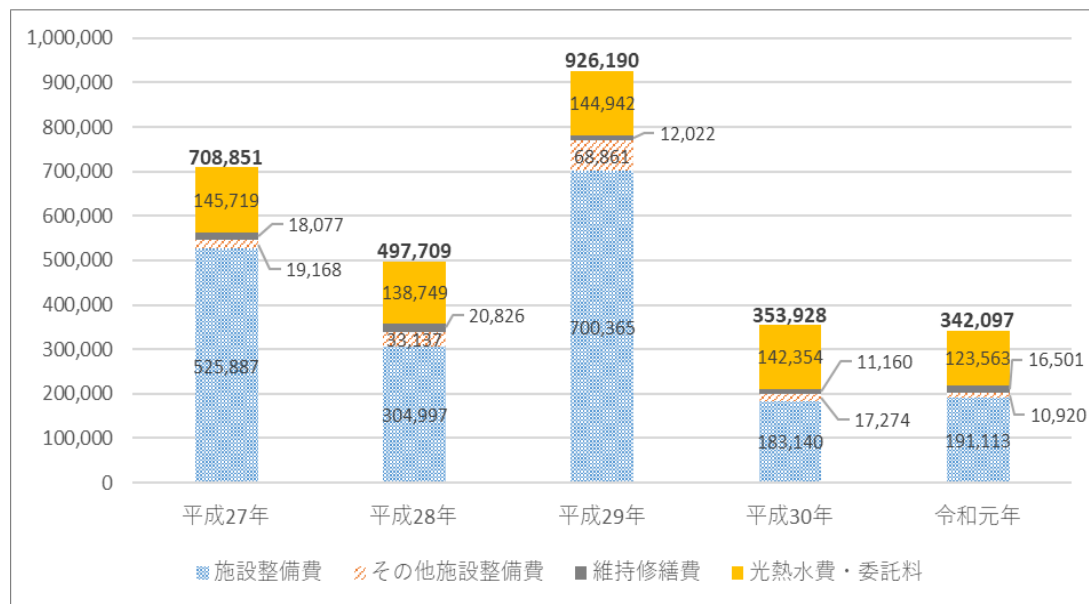
(4) 施設関連経費の推移

直近5年間の学校施設の整備に関する経費の支出額は、下表のとおりです。平成27年度から29年度にかけては、耐震補強工事、普通教室空調化工事のほか学校再配置に伴う施設整備事業等を行ったことで、施設整備に関する支出が大きくなっており、5年間の施設関連経費の平均支出額は約5.7億円となります。

(単位：千円)

	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	5年平均
施設関連経費合計	708,851	497,709	926,190	353,928	342,097	565,755
施設整備費	545,055	338,134	769,226	200,414	202,033	410,973
施設整備費	525,887	304,997	700,365	183,140	191,113	381,101
その他施設整備費	19,168	33,137	68,861	17,274	10,920	29,872
経常経費	163,796	159,575	156,964	153,514	140,064	154,782
維持修繕費	18,077	20,826	12,022	11,160	16,501	15,717
光熱水費・委託料	145,719	138,749	144,942	142,354	123,563	139,065

図 3-1 施設関連経費の推移



<用語解説>

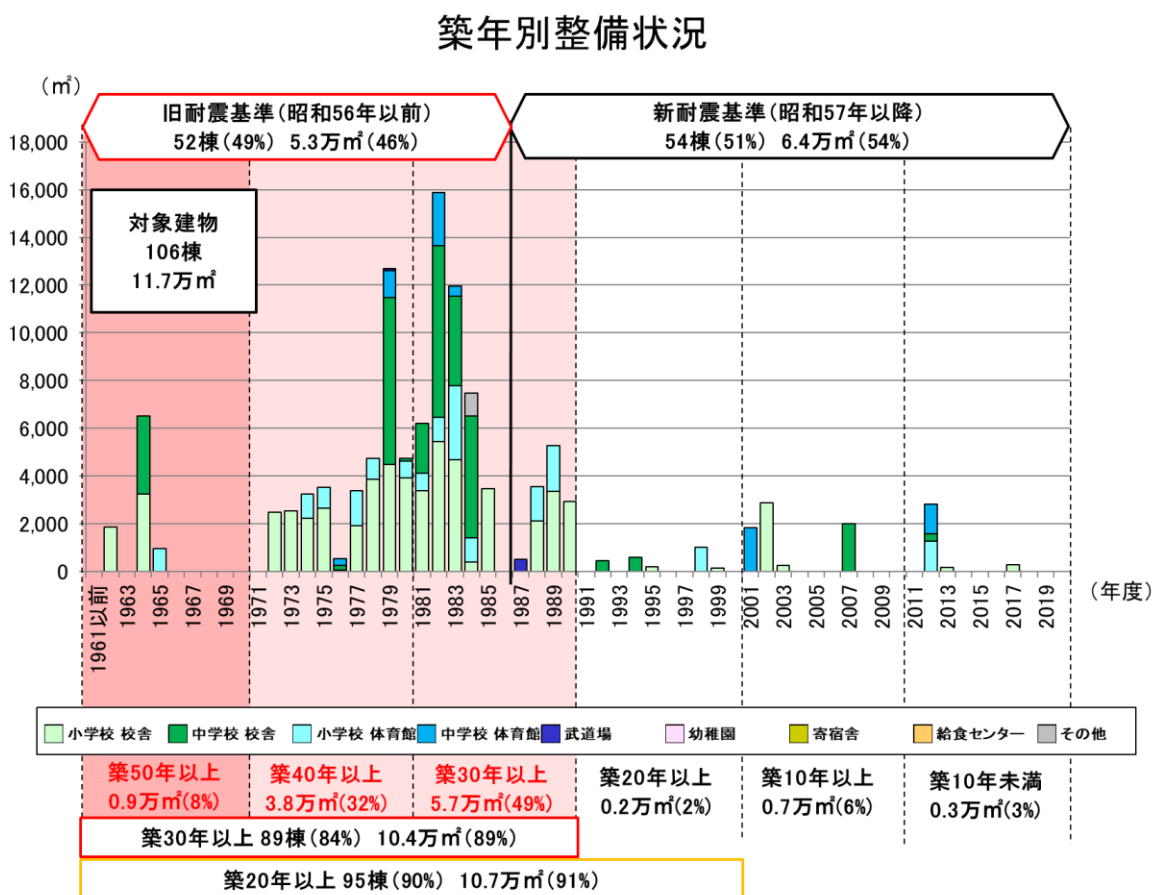
- ・施設整備費 校舎、体育館、給食室の整備に係る費用
- ・その他施設整備費 プール、グラウンド、共用設備（受変電、自家発、受水、排水）等の整備に係る費用
- ・維持修繕費 学校施設管理運営事業における修繕費（維持補修費）
- ・光熱水費、委託料 施設の維持管理運営に係る電気、水道、ガス、保守などの費用

(5) 学校施設の保有量

市が保有するこの計画の対象施設は、令和2年5月1日時点で106棟、総延床面積は約11.7万㎡あります。そのうち築年数30年以上の建物床面積は10.4万㎡であり、計画対象施設の床面積の89%を占め、10年後には約10.6万㎡と全体の91%を占める見込みであり、老朽化が進んでいます。

また、国が示す長寿命化改良の対象となる築年数40年以上の建物は約4.7万㎡と全体の40%を占め、国が示す従来の基準で改築の検討を行う築年数50年以上の建物も約0.9万㎡の8%が存在している状況であり、4割以上の建物が既に長寿命化や改築という長期的な視点での投資判断が必要な段階にあります。

図 3-2 築年別整備状況



(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

建替え中心で、故障や不具合が生じたら改修を行う「従来型」の修繕・改修を今後も続けた場合、今後40年間のコストは380億円（年当たり9.5億円）となります。この額は、直近5年間の施設関連経費（平均5.7億円）の1.7倍に当たります。また、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度の10年間は改築が集中するため年当たり23.3億円の経費がかかる見込みであり、従来の改築中心の整備を継続することは困難であり、対応策を検討する必要があります。

<従来型イメージ図>

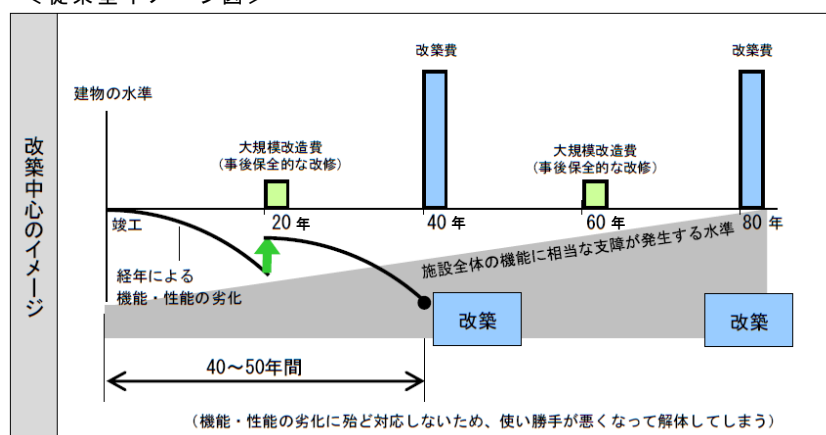
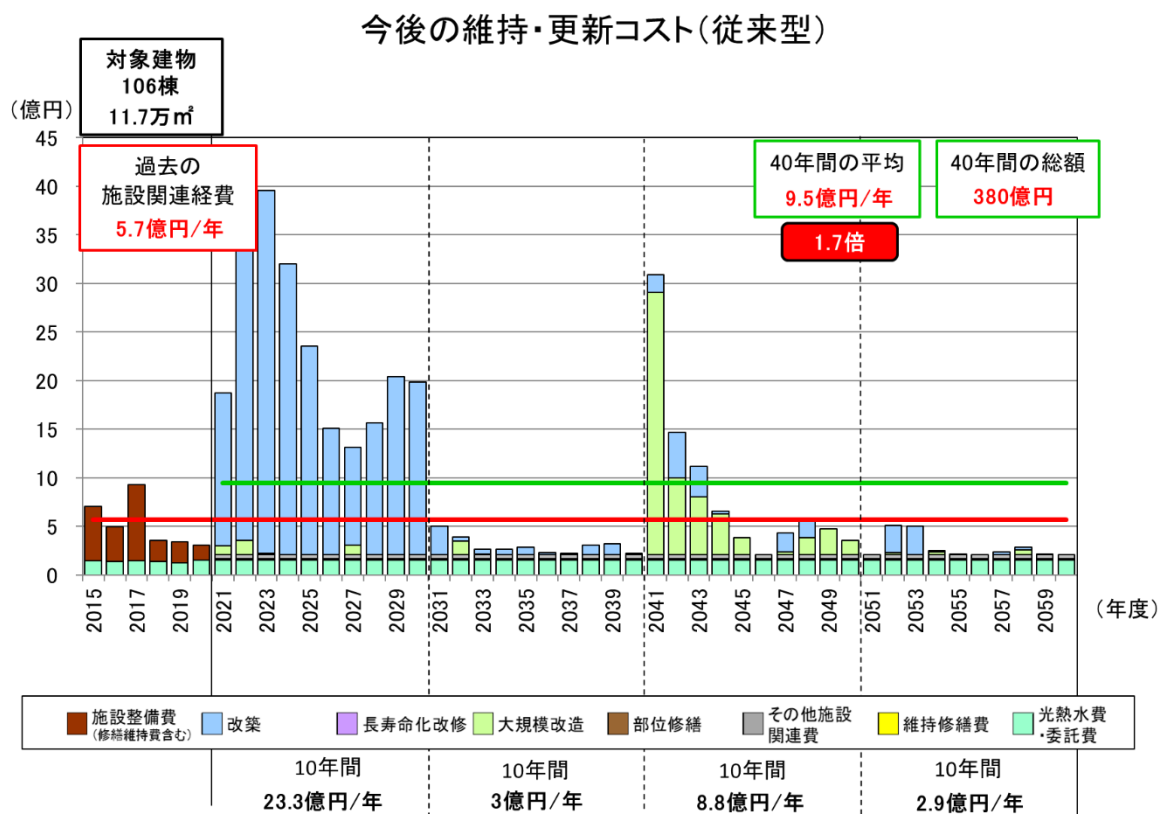


図 3-3 今後の維持・更新コスト将来推計



2. 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

学校施設の長寿命化の検討に当たり、長期間にわたって建物を使用するためには、構造躯体が健全でなければ安全性が確保できないため、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成29年3月）の評価基準や判定フローに基づき、次のステップで調査します。

【ステップ1】学校施設の全体把握

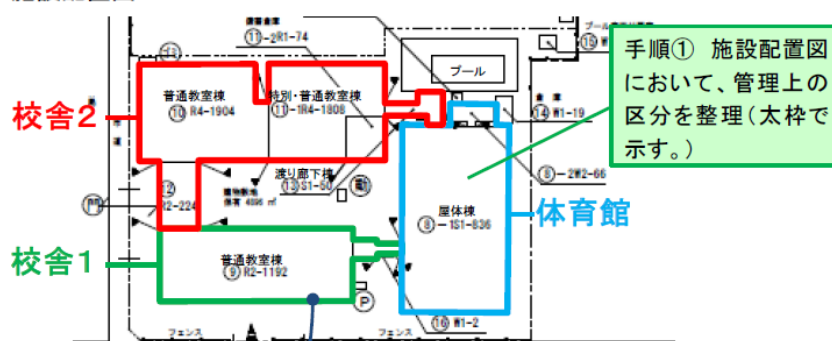
ア 対象建物の整理

学校施設台帳では、短期間で増築している部分や保有控除部分などが別棟として登載されているが、改築や改修を一体的に実施することが想定される建物を、以下のルールに基づき、まとめて1つの建物をして整理します。

- ・一体的に工事すべき「かたまり」を「ひとつの棟」とし、渡り廊下等は本体の教室棟と一体とみなす。
- ・建物としては一体でも、棟番号が異なる給食室棟やエキスパンションジョイントで分割された教室棟は、建築年数が近いものは「ひとつの棟」としてまとめる
- ・「ひとつの棟」とした場合、建築年度は最も古い建築年度のものの、構造種別は最大の床面積のものの、階数は最大のものとする。

(イメージ図)

施設配置図



建物情報一覧表

学校番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月日	建築年度		築年数
								西暦	和暦	
1301	A小学校	校舎	1	RC	3	2,562	S44.7.1	1969	S44	47
1301	A小学校	校舎	5	RC	3	1,525	S44.7.1	1969	S44	47
1301	A小学校	校舎	18-1,2	RC	4	1,179	H14.9.1	2002	H14	14

手順② 整理した区分を1つの建物として、建物情報一覧表に記入

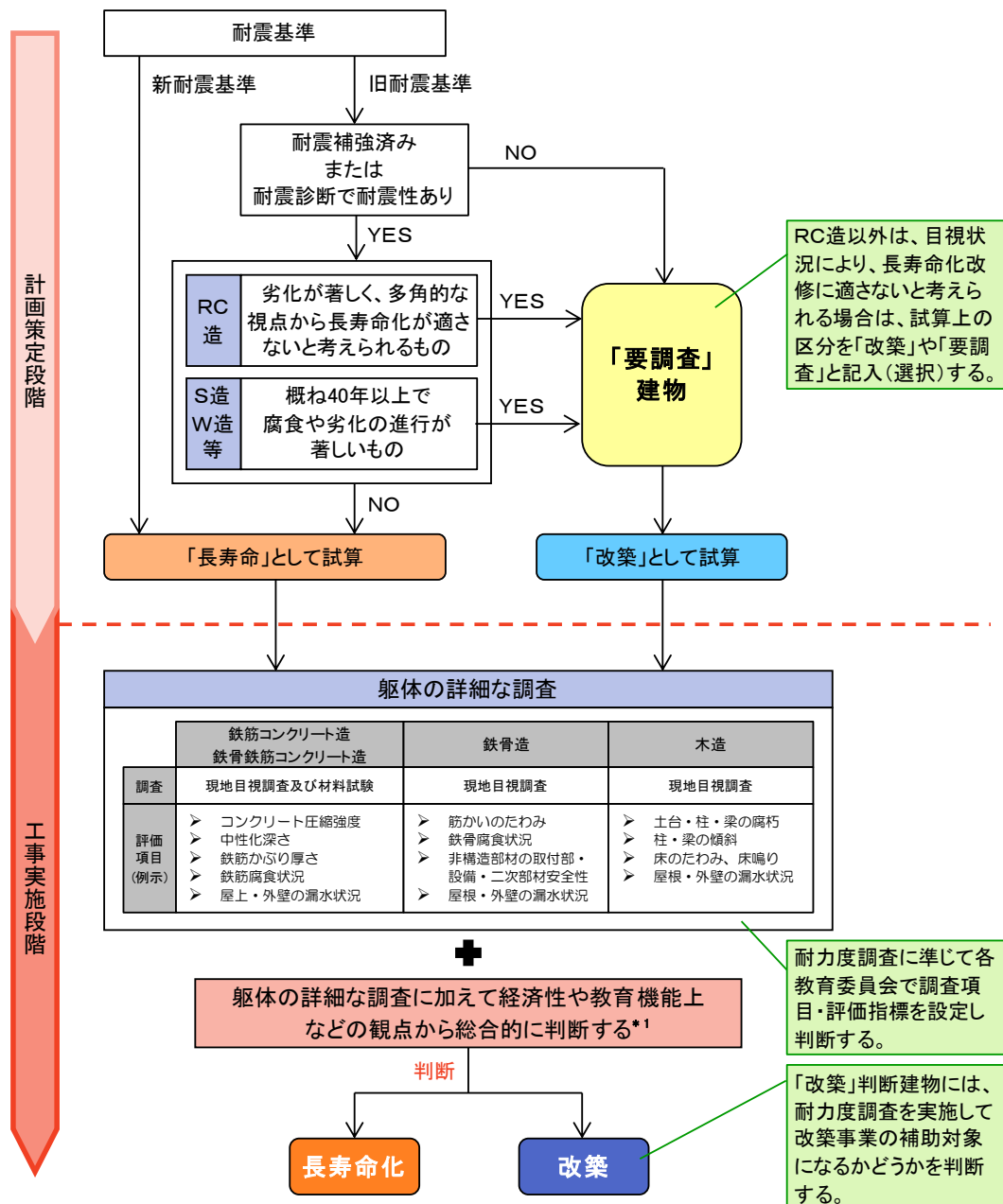
【ステップ2】老朽化状況の把握

ア 構造躯体の評価

構造躯体の健全性については、築年数及び耐震工事实施の有無を基に、今後の維持・更新コストに係る資産上の区分を「改築」「長寿命」「要調査」の3つに区分し評価します。このうち木造の建物や老朽化が著しい建物等は「要調査」とし、それ以外の建物は「長寿命」とします。

なお、峰山小学校管理室棟及び高龍小学校寄宿舎は劣化状況が著しく、使用していないため、本計画における対象施設から除外します。

図 3-4 長寿命化の判定フロー



*1例えば、時を重ねて活用され続けた木造建物等は、それ自体が文化的価値を有することも多く、改築に際しては、こうした観点からの検討も別途行う必要がある。

イ 構造躯体以外の劣化状況の評価

構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数と「表 3-5 劣化状況調査表」のチェック事項を基本に A から D の 4 段階で評価します。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価 【内部仕上げ、電気設備、 機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度の算定健全度は、前述のとおり各建物の 5 つの部位（屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備）について劣化状況を 4 段階で評価し、100 点満点で数値化した評価指標とします。

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価		評価点		配分	
1 屋根・屋上	C	→	40	×	5.1	= 204
2 外壁	D	→	10	×	17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	→	75	×	22.4	= 1,680
4 電気設備	A	→	100	×	8.0	= 800
5 機械設備	C	→	40	×	7.3	= 292
計						3,148
						÷ 60
						健全度 52

表 3-5 劣化状況調査表

通し番号			
学校名		学校番号	
建物名			調査日
棟番号			記入者
構造種別		建築年度	平成 年度 (年度)
	延床面積	m ²	階数
			地上 階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水			☐ 降雨時に雨漏りがある			
	☐ アスファルト露出防水			☐ 天井等に雨漏り痕がある			
	☐ シート防水、塗膜防水			☐ 防水層に膨れ・破れ等がある			
	☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板)			☐ 屋根葺材に錆・損傷がある			
	☐ 勾配屋根(スレート、瓦類)			☐ 笠木・立上り等に損傷がある			
	☐ その他の屋根 ()			☐ 樋やルーフドレンを目視点検できない			
				☐ 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	☐ 塗仕上げ			☐ 鉄筋が見えているところがある			
	☐ タイル張り、石張り			☐ 外壁から漏水がある			
	☐ 金属系パネル			☐ 塗装の剥がれ			
	☐ コンクリート系パネル(ALC等)			☐ タイルや石が剥がれている			
	☐ その他の外壁 ()			☐ 大きな亀裂がある			
	☐ アルミ製サッシ			☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	☐ 鋼製サッシ			☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	☐ 断熱サッシ、省エネガラス			☐ 外部手すり等の錆・腐朽			
				☐ 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☐ 老朽改修			
	☐ エコ改修			
	☐ トイレ改修			
	☐ 法令適合			
	☐ 校内LAN			
	☐ 空調設置			
	☐ 障害児等対策			
	☐ 防犯対策			
	☐ 構造体の耐震対策			
4 電気設備	☐ 分電盤改修			
	☐ 配線等の敷設工事			
	☐ 昇降設備保守点検			
	☐ その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	☐ 給水配管改修			
	☐ 排水配管改修			
	☐ 消防設備の点検			
	☐ その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

表 3-6 老朽化状況と健全性の評価結果

建物情報一覧表																	
築60年以上 築20年以上 築40年以上 築20年未満 基準 2020 A:概ね良好 B:部分的に劣化 C:広範囲に劣化 D:早急に対応する必要がある																	
建物基本情報									構造躯体の健全				劣化状況評価				
施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
					西暦	和暦		基準	診断	補強							
峰山小学校	管理室棟、管理室棟(玄関)	RC	2	699	1929	S4	91	旧			—	D	D	D	D	D	10
	教室棟	RC	3	2,046	1964	S39	56	旧	済	済	長寿命	C	B	D	C	C	39
	特別教室棟	RC	3	1,181	1964	S39	56	旧	済	済	長寿命	C	B	C	C	C	50
	屋内運動場	RC	1	940	1965	S40	55	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	特別教室棟	RC	3	1,208	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	C	B	C	C	C	50
	給食棟	S	1	188	1995	H7	25	新			長寿命	B	B	B	C	C	66
いさなご小学校	教室棟	RC	3	1,697	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	B	B	C	C	68
	教室棟	RC	3	1,275	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	B	B	C	C	68
	屋内運動場、渡り廊下	RC	1	811	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	C	B	B	C	C	63
	給食棟	RC	1	416	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	B	C	C	C	55
しんざん小学校	校舎棟	RC	2	1,387	1989	H元	31	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
	校舎棟	RC	2	638	1989	H元	31	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
	屋内運動場	RC	1	822	1989	H元	31	新			長寿命	B	C	B	C	C	56
	給食棟	RC	1	302	1989	H元	31	新			長寿命	B	C	B	C	C	56
	情報教育教室棟、情報教育教室棟・廊下	RC	1	92	1989	H元	31	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
	校舎棟	RC	2	195	2003	H15	17	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
	校舎棟	RC	2	267	2017	H29	3	新			長寿命	A	A	A	C	C	85
長岡小学校	教室棟	RC	2	1,423	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43
	管理棟	RC	2	524	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43
	屋内運動場	RC	1	735	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	B	D	B	C	C	47
	給食棟	RC	1	234	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43
大宮第一小学校	教室棟	RC	3	2,489	1972	S47	48	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	渡り廊下、管理棟及び特別教室棟、EV棟	RC	3	2,521	1973	S48	47	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	プレイルーム	RC	1	162	1974	S49	46	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	屋内運動場	RC	1	990	1974	S49	46	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	給食棟、渡り廊下	S	1	265	1974	S49	46	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	管理棟及び特別教室棟	RC	3	270	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
大宮南小学校	管理棟及び特別教室棟	RC	2	1,526	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	B	B	C	C	C	53
	教室棟	RC	2	641	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	B	B	C	C	C	53
	給食棟	RC	1	1,049	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43
	屋内運動場	RC	1	704	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
網野北小学校	管理棟及び特別棟及び教室棟	RC	2	5,449	1982	S57	38	新			長寿命	C	D	C	C	C	31
	屋内運動場(大)	RC	1	1,017	1982	S57	38	新			長寿命	B	D	C	C	C	34
	ランチルーム、屋内運動場(小)	RC	2	1,011	1983	S58	37	新			長寿命	C	D	C	C	C	31
網野南小学校	管理棟及び教室棟	RC	3	4,678	1983	S58	37	新			長寿命	D	D	C	C	C	29
	屋内運動場(大)、給食棟、屋内運動場(小)、廊下	RC	2	2,080	1983	S58	37	新			長寿命	C	D	B	C	C	45
島津小学校	管理棟及び教室棟	RC	2	1,565	1962	S37	58	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43
	特別教室棟、渡り廊下	W	2	278	1962	S37	58	旧	済	済	要調査	D	D	D	D	D	10
	便所	W	1	46	1976	S51	44	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40
	屋内運動場、用務員室	RC	1	872	1977	S52	43	旧	済	済	長寿命	B	B	C	C	C	53
	教室棟、廊下	S	1	61	2003	H15	17	新			長寿命	B	B	B	B	B	75
橘小学校	屋内運動場	RC	1	1,438	1988	S63	32	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
	校舎棟	RC	2	2,566	1990	H2	30	新			長寿命	C	C	C	C	C	40
	会議室	S	1	72	1999	H11	21	新			長寿命	C	B	B	C	C	63

建物情報一覧表

 : 築60年以上
 : 築40年以上
 : 築20年以上
 : 築20年未満
 基準 2020
 A : 概ね良好
 C : 広範囲に劣化
 B : 部分的に劣化
 D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報								構造躯体の健全				劣化状況評価						
施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)	
					西暦	和暦		基準	診断	補強								
丹後小学校	特別教室棟	RC	2	690	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	C	C	B	C	C	53	
	屋内運動場、渡り廊下	S	1	1,003	1998	H10	22	新			長寿命	B	B	B	C	C	66	
	管理棟及び教室棟	RC	2	2,609	2002	H14	18	新			長寿命	B	C	B	C	C	56	
	廊下、給食棟	RC	2	270	2002	H14	18	新			長寿命	B	C	B	C	C	56	
宇川小学校	管理棟及び教室棟	RC	2	1,321	1975	S50	45	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43	
	管理棟及び教室棟	RC	2	1,196	1975	S50	45	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43	
	給食棟	RC	1	114	1975	S50	45	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43	
	屋内運動場	RC	1	891	1975	S50	45	旧	済	済	長寿命	D	C	C	C	C	37	
吉野小学校	管理棟及び教室棟	RC	2	1,671	1977	S52	43	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	屋内運動場	RC	1	610	1977	S52	43	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	給食棟	RC	1	231	1977	S52	43	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
弥栄小学校	教室棟	RC	2	735	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	玄関	RC	3	450	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	管理棟及び教室棟	RC	2	1,307	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	廊下、教室棟	RC	1	99	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	給食棟	RC	1	366	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	屋内運動場、渡り廊下	RC	1	887	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	特別教室棟	W	1	156	2013	H25	7	新			長寿命	A	A	A	A	A	100	
久美浜小学校	管理棟	RC	3	1,941	1985	S60	35	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	教室棟	RC	3	1,533	1985	S60	35	新			長寿命	D	C	C	C	C	37	
	屋内運動場	S	1	1,007	1984	S59	36	新			長寿命	C	C	B	C	C	53	
	給食棟	RC	1	392	1984	S59	36	新			長寿命	A	C	C	C	C	45	
高龍小学校	寄宿舎	W	2	289	1966	S41	54	旧			—	D	D	D	D	D	10	
	管理棟	RC	2	894	1978	S53	42	旧	済	済	長寿命	A	B	B	C	C	68	
	普通教室棟	RC	3	1,123	1988	S63	32	新			長寿命	A	B	B	C	C	68	
	特別教室棟	RC	3	974	1988	S63	32	新			長寿命	A	B	B	C	C	68	
	校舎棟、給食・格技棟	RC	2	931	1989	H元	31	新			長寿命	A	B	B	C	C	68	
	屋体棟	S	1	1,096	1989	H元	31	新			長寿命	D	C	B	C	C	51	
かぶと山小学校	校舎棟、印刷室	RC	3	1,808	1974	S49	46	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	給食棟	RC	1	365	1990	H2	30	新			長寿命	C	B	C	C	C	50	
	便所・特別教室棟	RC	2	73	1999	H11	21	新			長寿命	C	B	B	C	C	63	
	屋内運動場、特別教室棟、渡り廊下棟、屋外倉庫棟	RC	1	1,265	2012	H24	8	新			長寿命	A	A	A	C	C	85	
峰山中学校	管理棟	RC	3	2,373	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	C	B	C	C	58	
	教室棟及び給食棟	RC	3	2,788	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	C	C	C	C	45	
	特別教室棟、渡り廊下	RC	2	1,846	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	A	C	B	C	C	58	
	屋内運動場(大)	RC	1	1,121	1979	S54	41	旧	済	済	長寿命	C	C	B	C	C	53	
	屋内運動場(小)	RC	1	442	1983	S58	37	新			長寿命	C	C	B	C	C	53	
	格技場	W	1	94	1979	S54	41	旧			要調査	D	D	C	C	C	29	
大宮中学校	屋内運動場、屋内運動場階段	RC	2	1,692	1983	S58	37	新			長寿命	A	C	C	C	C	45	
	教室棟	RC	3	2,067	1984	S59	36	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	管理棟及び教室棟	RC	3	2,094	1984	S59	36	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	教室棟	RC	3	502	1984	S59	36	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	廊下、給食棟	RC	3	437	1984	S59	36	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	

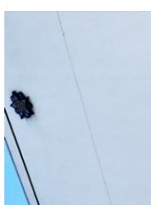
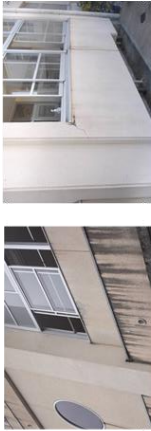
建物情報一覧表

 : 築60年以上
 : 築40年以上
 A : 概ね良好
 C : 広範囲に劣化
 : 築20年以上
 : 築20年未満
 基準 2020
B : 部分的に劣化
D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報								構造躯体の健全				劣化状況評価						
施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)	
					西暦	和暦		基準	診断	補強								
網野中学校	旧管理棟	W	1	207	1976	S51	44	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43	
	教室棟	RC	3	2,063	1981	S56	39	旧	済	済	長寿命	B	C	C	C	C	43	
	教室棟	RC	3	1,377	1983	S58	37	新			長寿命	A	C	C	C	C	45	
	廊下、教室棟	RC	2	573	1994	H6	26	新			長寿命	B	B	B	B	B	75	
	屋内運動場、剣道場棟	RC	1	1,824	2001	H13	19	新			長寿命	A	A	A	A	B	97	
	管理棟、渡り廊下	RC	3	1,999	2007	H19	13	新			長寿命	A	A	A	A	A	100	
丹後中学校	特別教室棟、管理棟及び教室棟	RC	3	3,289	1964	S39	56	旧	済	済	長寿命	A	C	C	C	C	45	
	給食棟	RC	1	120	1980	S55	40	旧	済	済	長寿命	C	C	C	C	C	40	
	室内運動場	W	1	269	1976	S51	44	旧			要調査	D	C	D	C	C	26	
	屋内運動場	RC	3	1,243	2012	H24	8	新			長寿命	A	A	A	C	C	85	
弥栄中学校	教室棟、教室棟	RC	3	3,367	1982	S57	38	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	屋内運動場	RC	1	1,148	1982	S57	38	新			長寿命	C	C	B	C	C	53	
	教室棟	W	1	217	1982	S57	38	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
	給食棟	RC	1	445	1992	H4	28	新			長寿命	B	C	B	C	C	56	
	柔剣道場	S	1	496	1987	S62	33	新			長寿命	C	C	C	C	C	40	
久美浜中学校	管理棟	RC	3	2,349	1982	S57	38	新			長寿命	A	B	C	C	C	55	
	普通教室棟	RC	3	1,247	1982	S57	38	新			長寿命	A	B	B	C	C	68	
	屋内運動場	S	1	1,094	1982	S57	38	新			長寿命	A	C	B	C	C	58	
	給食棟・柔道場、給食調理室棟	RC	2	682	1983	S58	37	新			長寿命	A	B	C	C	C	55	
	教室棟	RC	3	296	2012	H24	8	新			長寿命	A	A	A	C	C	85	
学校給食センター	給食センター	RC	1	984	1984	S59	36	新			改築	A	D	C	B	C	41	

※スクールバス車庫・物置等については別途調査し、劣化状況により取壊し、改築を検討する。

表 3-7 老朽化状況と評価基準

良好		劣化			
部位別	評価 仕様	A	B	C	D
屋根・屋上	シート 防水	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ふくれ、しわ、変質(摩耗)、排水不良がある。	 広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。	 広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。
外壁	塗り 仕上げ	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・浮き・さび汁がある。	 広範囲に、ひび割れ・亀甲状のひび割れ・変質・浮き・剥がれ・さび汁があり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。
	窓 (サッシ)	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、変形・変質・シーリング材の硬化。	 全体的に、変形・変質・さび・シーリング材の硬化・ひび割れが見られる。	 全体的に、腐食・損壊・開閉不良があり、漏水がある。
部位別	該当する部位				
内部 仕上	CまたはDの事象(例)				
	●床、壁、天井	●内部仕上げと設備機器について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) ・特定の教室のみの改修・天井張替え、壁の塗り替え、照明器具交換など、部位、機器のみの改修工事			
	●内部開口部(扉、窓、防火戸)	●広範囲(25%以上の面積)または随所(5か所以上)に劣化事象がみられる場合は、評価を1段階下げることを目安とする。			
	●室内表示、手すり、固定家具など				
	●照明器具、衛生器具、冷暖房器具				
		 床仕上げの剥がれ	 床のひび割れ	 天井材の落下・剥がれ	

(2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

建替え中心で故障や不具合が生じたら改修を行う「従来型」から計画的に機能向上と機能回復に向けた改修を行う「長寿命化型」に切り替えていくためには、修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。

「長寿命化型」により目標耐用年数を80年として改修を行う長寿命化をした場合、今後40年間の維持・更新コストは平準化され、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度の10年間の経費は年当たり23.3億円から9.8億円に縮減されます。

<長寿命化型イメージ図>

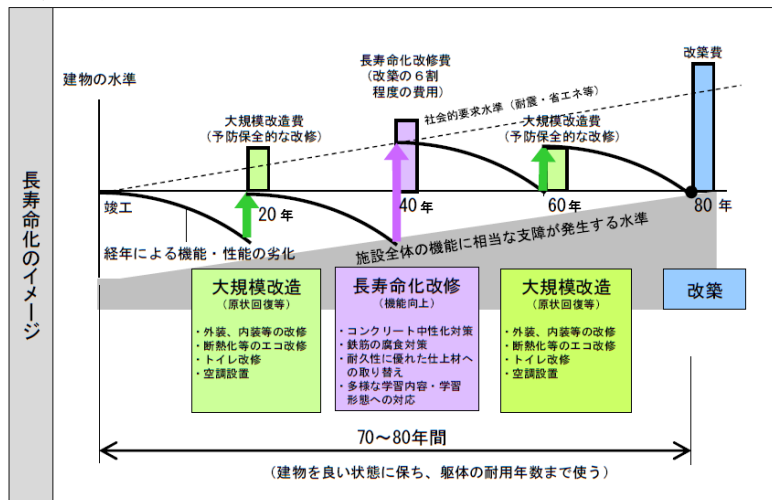
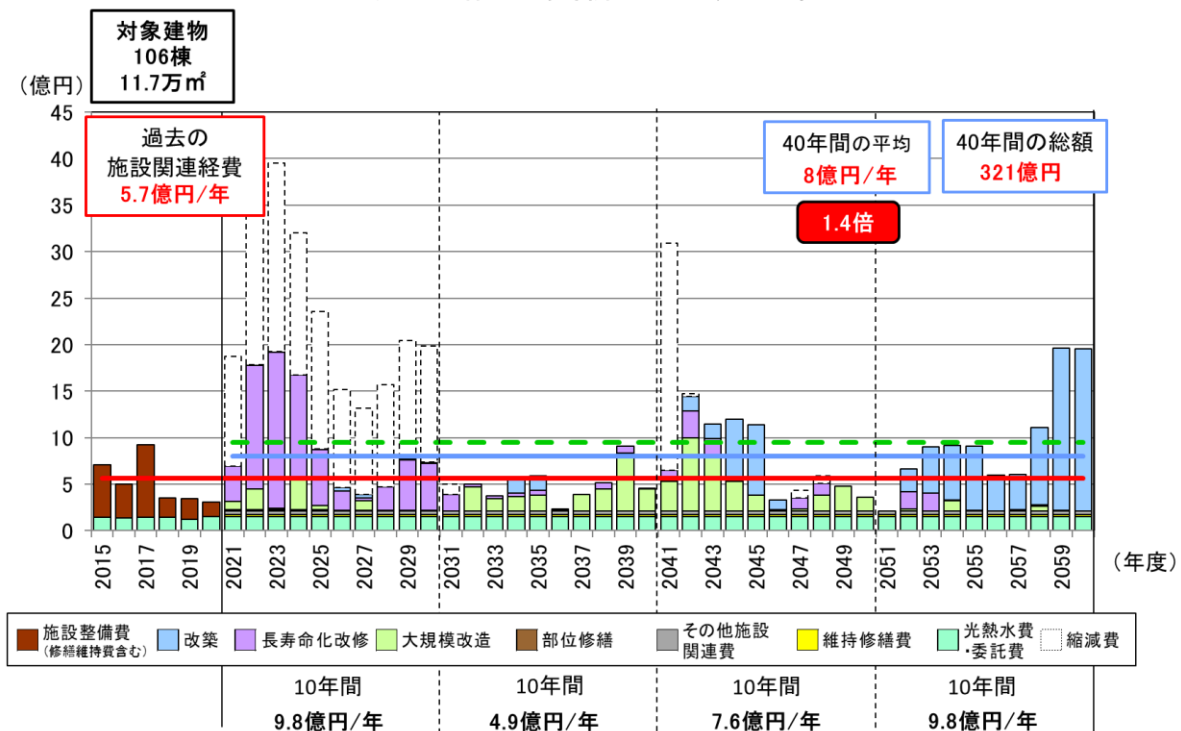


図 3-8 今後の維持・更新コスト将来推計（長寿命化型）

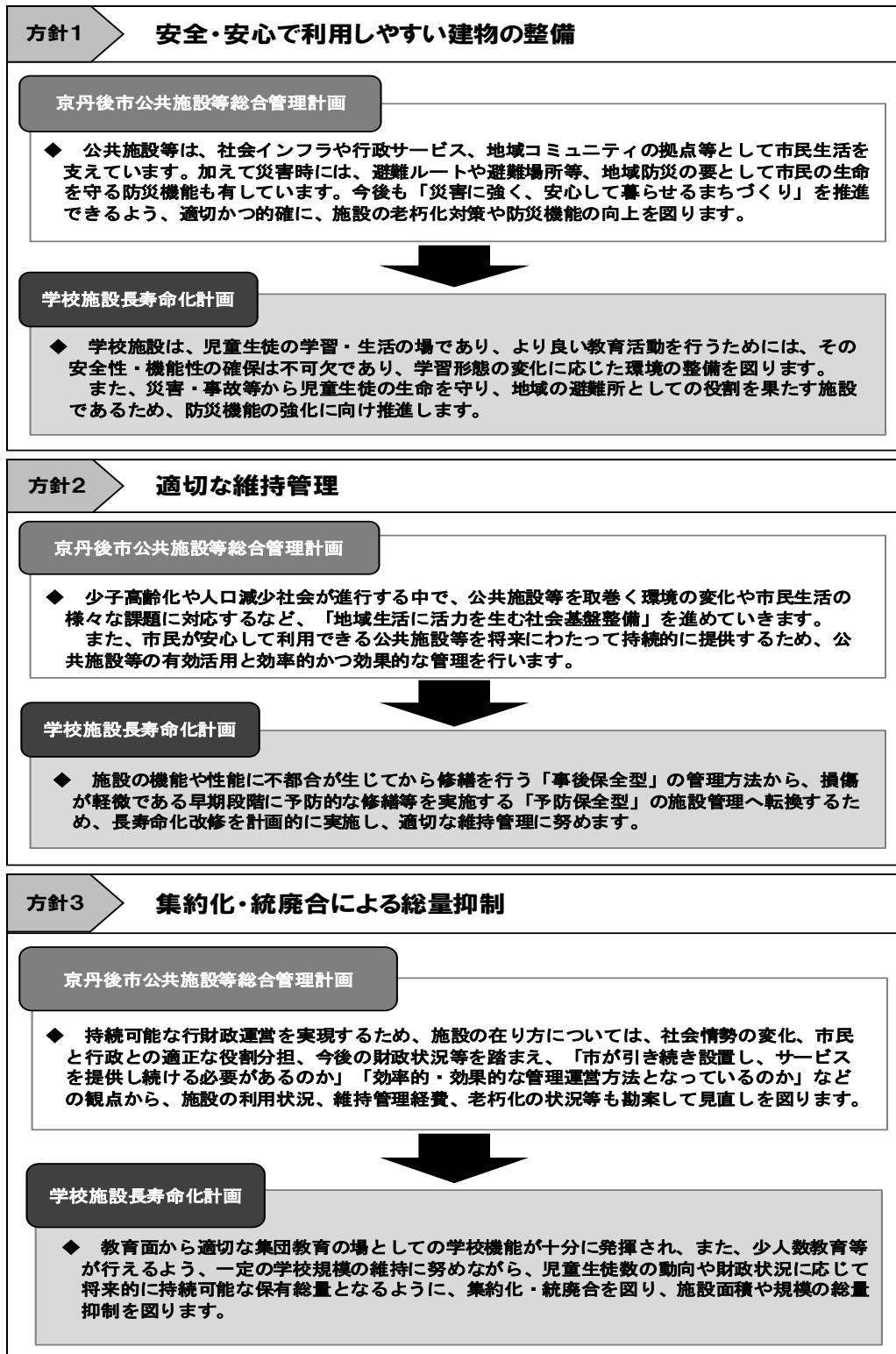
今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 学校施設の長寿命化計画の3つの基本方針



(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

本市では平成 22 年 12 月に京丹後市学校再配置基本計画を策定し、10 年間の計画期間で学校の適正規模や適正配置を考え、取組みを進めてきました。

当該計画策定に当たっての基本的な考え方として、児童生徒等にとって望ましい学習集団や生活集団を形成し、より良い学習環境を創造するとともに教育内容や教育条件等の質の向上を図るため、学校規模の適正化に取り組むものであり、また併せて、地域の中での学校の役割が通学距離、通学路の安全確保等に十分配慮し、保護者、地域住民の理解と協力を得られるものであるものとされています。

○京丹後市における学校の適正規模

- ・ 小学校では、法令面やクラス替えが可能である 1 学年 2 ～ 3 学級を適正規模とする。
- ・ 中学校では、クラス替えが可能で集団競技の実施など望ましい教育活動を円滑に行うことが確保できる 1 学年 3 ～ 6 学級を適正規模とする。
- ・ 小規模校が多い京丹後市の現状を踏まえ、適正規模に達しない場合でも、小学校においては 6 学級以上で 1 学級 20 人を下回らないこと、また、中学校においては 1 学年あたり 2 学級以上の学校規模の形成を目指す。

「京丹後市学校再配置基本計画」（平成 22 年 12 月）抜粋

本市では、「京丹後市学校再配置基本計画実施方針」に基づき、平成 24 年度から平成 31 年度にかけて学校再配置事業に取り組み、学校数については、平成 22 年時点では小学校 30 校で中学校 9 校でしたが、令和 2 年度末では小学校 17 校、中学校 6 校となりました。

これまでの学校設置の経過や現状を踏まえ、基本的な方針等を継承しつつ次期計画が策定検討されており、今後も児童生徒数の減少により適正な学校規模となることが困難な小規模校について、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化への対応等を総合的に勘案しながら、計画的に適正規模化に向けた適正配置を進めます。

2. 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

長寿命化とは、施設をできる限り長く使い続けるため、必要な整備を適切に行うこととします。本計画では、「長寿命化改良」「大規模改造」「大規模修繕」「定期更新」「応急修繕」（以下「改修等」という。）といった長寿命化手法により、建物の目標使用期間に応じて適切に改修周期を構築し、持続可能な財政運営を進めながら学校施設の長寿命化を図ります。

また、本市の厳しい財政状況を踏まえ、中長期的な維持・改修等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を実現するため、長寿命化手法については費用対効果など経済的な比較検討を行い、施設の更新を含めて優位となる手法を選択します。

なお、改修等を行う場合は、施設全体が将来にわたり効果的に使用・利活用できる計画とします。長寿命化改良事業を行う場合、施設をその後 30 年間使用することになり、用途変更や財産処分が制限されるため、前述の学校施設整備の基本的な方針に従い、関連する計画との整合が図れるよう、事前に関係部署と十分な調整を行い、施設を有効に利用していく必要があります。

(2) 予防保全の方針

児童生徒等の安全性を確保し、学校施設をできる限り長く使うためには、適切な維持管理を行っていくことが重要です。そのためには、老朽化による耐力低下・劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に行う「事後保全」ではなく、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで、機能・性能の保持・回復を図る「予防保全」を行うことが必要です。今後は予防保全を実施していくうえで、適切な周期で修繕等を実施するとともに定期的な施設点検の実施サイクルの構築を進めます。

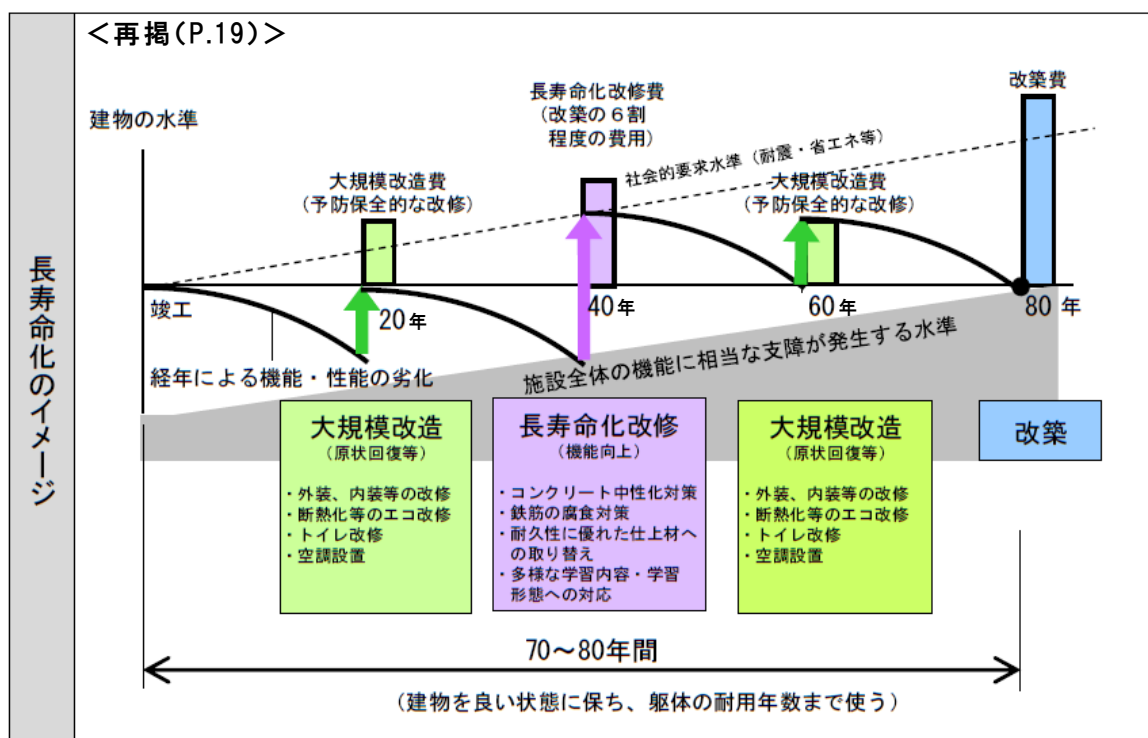
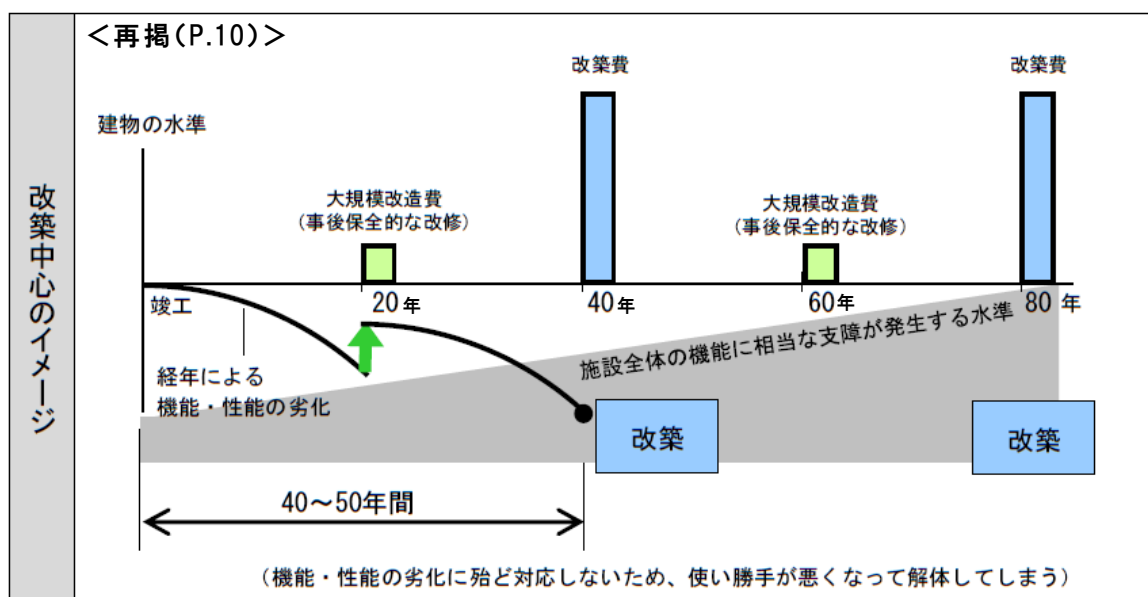
(3) 目標耐用年数の設定

日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」をもとに、鉄筋コンクリート造の校舎については、目標耐用年数をおおむね 80 年と設定することとし、また国の整備方針に基づき、大規模改造を建築後 20 年と 60 年で実施し、長寿命化改修を建築後 40 年で実施していくことが望ましいと考えます。

図 4-1 長寿命化のイメージ

長寿命化の目標耐用年数を 80 年としてイメージした場合の比較

改修内容	改修周期		工事内容
改築中心の場合 【事後保全型】	建築後 20 年目に 大規模改造	建築後 40 年目に 改築	大規模改造 2 回 改築 2 回
長寿命化の場合 【予防保全型】	建築後 20・60 年目に 大規模改造	建築後 40 年目に 長寿命化	大規模改造 2 回 長寿命化 1 回 改築 1 回



第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1. 改修等の整備水準

構造躯体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習活動に対応する施設環境が確保されるなど、新しい時代の学びを支える安全・安心な施設改修を考慮し、整備レベルの統一を図ります。次の表に示す各部位のおおむね中等レベル（橙着色部）を基本としますが、改修時の施設の状況や財政状況等を勘案して、詳細は別途定めるものとします。

部位			整備レベル			
			高	低		
外部仕上げ	屋根・屋上		外断熱 アスファルト防水	外断熱 シート防水	アスファルト・シート・塗膜防水	
	外壁		フッ素系塗料 外断熱	シリコン系塗料 内断熱	ウレタン系塗料 内断熱	アクリル系塗料 断熱なし
	外部開口部		サッシ交換 (複層ガラス等)	既存サッシのガラス交換 (複層ガラス等)		シーリング打替え 開閉調整程度
内部仕上げ	教室等		内装の全面撤去・更新		床補修、壁・天井 塗替え(部分補)	既存のまま
	建具		扉更新 (木製・軽量鋼製)		金物交換 塗装改修	既存のまま
	トイレ		内装の全面撤去・更新 ドライ化		床補修 壁・天井塗替え	既存のまま
電気設備	受変電設備		太陽光発電	自家発電設備	屋内キュービクル	屋外キュービクル
	照明器具		LED照明(昼光利用 制御センサー付)	LED照明 (センサー無し)	蛍光灯	
機械設備	給排水設備		給水設備改修 雨水・中水利用	給排水設備改修		既存補修
	衛生設備	トイレ	温水洗浄便座 節水型	洋式化 節水型		既存のまま
		手洗	自動水栓		一般型	
	空調設備	冷暖房	普通・特別教室 空調機設置	普通教室 空調機設置		設置なし
		換気	全熱交換器設置	換気扇設置		設置なし (自然換気)
バリアフリー			手摺・スロープの設置、段差解消			既存のまま
耐震			非構造部材の耐震化			

2. 維持管理の項目・手法等

各施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、本計画策定の際に作成した「表 3-5 劣化状況調査表」を活用し、今後も継続的に点検・評価を実施します。

なお、点検・評価については3年から5年周期で実施し、特に劣化が著しく進んでいる施設は重点的に行い、財政状況や市全体の施策との調整を図りながら、計画的な部位修繕を実施し、教育環境水準の維持に努めます。

第6章 長寿命化の実施計画

1. 改修等の優先順位付けと実施計画

学校施設の維持管理、更新・改修に要する経費の縮減と平準化を図るため、改修は以下の表のとおり、健全度が低く、古い建物を優先することを基本とします。また併せて、建物の立地場所・隣接地への影響など総合的に判断するとともに、「京丹後市学校再配置基本計画」との整合性を図りながら、それぞれの建物にふさわしい改修時期や実施回数、施設使用年数の検討を進めます。

表 6-1 改修等の優先順位の考え方

		施設の健全度			
		I (0～30 点)	II (31～60 点)	III (61～80 点)	IV (81～100 点)
築年数	a (60 年以上)	優先度 1	優先度 2	優先度 3	優先度 4
	b (40～59 年)	優先度 2	優先度 3	優先度 4	優先度 5
	c (20～39 年)	優先度 3	優先度 4	優先度 5	優先度 6
	d (1～19 年)	優先度 4	優先度 5	優先度 6	優先度 7

表 6-2 改修等の優先度分布（棟別）

優先度分布		健全度			
		I (0～30点)	II (31～60点)	III (61～80点)	IV (81～100点)
築年数	a (60～80年)	峰山小（管理室棟、管理室棟（玄関）） 優先度 1	優先度 2	優先度 3	優先度 4
	b (40～59年)	高龍小（寄宿舎） 丹後中（室内運動場） 峰山中（格技場） 島津小（特別教室棟、渡り廊下） 優先度 2	峰山小（教室棟） 峰山小（特別教室棟） 峰山小（屋内運動場） いさなご小（給食棟） 大宮第一小（教室棟） 大宮第一小（渡り廊下、管理棟及び特別教室棟、EV棟） 大宮第一小（プレイルーム） 大宮第一小（屋内運動場） 大宮第一小（給食棟、渡り廊下） 大宮第一小（管理棟及び特別教室棟） 大宮南小（管理棟及び特別教室棟） 大宮南小（教室棟） 大宮南小（給食棟） 大宮南小（屋内運動場） 島津小（管理棟及び教室棟） 島津小（便所） 島津小（屋内運動場、用務員室） 宇川小（管理棟及び教室棟） 宇川小（管理棟及び教室棟） 宇川小（給食棟） 宇川小（屋内運動場） 吉野小（管理棟及び教室棟） 吉野小（屋内運動場） 吉野小（給食棟） 弥栄小（教室棟） 弥栄小（玄関） 弥栄小（管理棟及び教室棟） 弥栄小（廊下、教室棟） 弥栄小（給食棟） 弥栄小（屋内運動場、渡り廊下） かぶと山小（校舎棟、印刷室） 峰山中（管理棟） 峰山中（教室棟及び給食棟） 峰山中（特別教室棟、渡り廊下） 峰山中（屋内運動場（大）） 網野中（旧管理棟） 丹後中（特別教室棟、管理棟及び教室棟） 優先度 3	いさなご小（教室棟） いさなご小（教室棟） いさなご小（屋内運動場、渡り廊下） 高龍小（管理棟） 優先度 4	優先度 5
	c (20～39年)	網野南小（管理棟及び教室棟） 優先度 3	峰山小（特別教室棟） しんざん小（校舎棟） しんざん小（校舎棟） しんざん小（屋内運動場） しんざん小（給食棟） しんざん小（情報教育教室棟、情報教育教室棟・廊下） 長岡小（教室棟） 長岡小（教室棟） 長岡小（屋内運動場） 長岡小（給食棟） 網野北小（管理棟及び特別棟及び教室棟） 網野北小（屋内運動場（大）） 網野北小（ランチルーム、屋内運動場（小）） 網野南小（屋内運動場（大・小）、給食棟、廊下） 橘小（屋内運動場） 橘小（校舎棟） 丹後小（特別教室棟） 久美浜小（管理棟） 久美浜小（教室棟） 久美浜小（屋内運動場） 久美浜小（給食棟） 高龍小（屋体棟） かぶと山小（給食棟） かぶと山小（便所・特別教室棟） 峰山中（屋内運動場（小）） 大宮中（屋内運動場、屋内運動場階段） 大宮中（教室棟） 大宮中（管理棟及び教室棟） 大宮中（教室棟） 大宮中（廊下、給食棟） 網野中（教室棟） 網野中（教室棟） 丹後中（給食棟） 弥栄中（教室棟、教室棟） 弥栄中（屋内運動場） 弥栄中（教室棟） 弥栄中（給食棟） 弥栄中（柔剣道場） 久美浜中（管理棟） 久美浜中（普通教室棟） 久美浜中（屋内運動場） 久美浜中（給食棟・柔道場、給食調理室棟） 学校給食センター 優先度 4	峰山小（給食棟） 橘小（会議室） 丹後小（屋内運動場、渡り廊下） 高龍小（普通教室棟） 高龍小（特別教室棟） 高龍小（校舎棟、給食・格技棟） 網野中（廊下、教室棟） 優先度 5	優先度 6
	d (1～19年)	優先度 4	しんざん小（校舎棟） 丹後小（管理棟及び教室棟） 丹後小（廊下、給食棟） 優先度 5	島津小（教室棟、廊下） 優先度 6	しんざん小（校舎棟） 弥栄小（特別教室棟） かぶと山小 （屋内運動場、特別教室棟、渡り廊下棟、屋外倉庫棟） 網野中（屋内運動場、剣道場棟） 網野中（管理棟、渡り廊下） 久美浜中（教室棟） 優先度 7

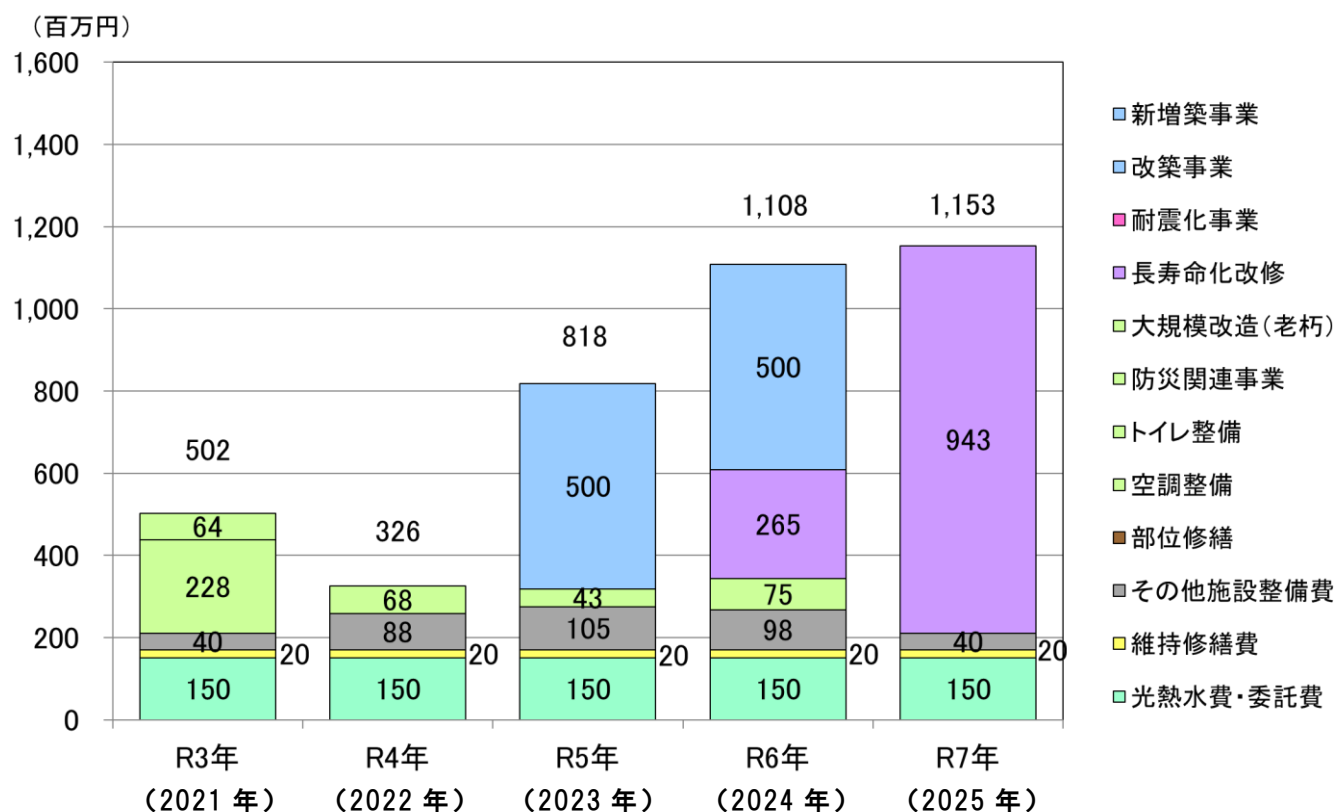
築年数及び健全度より分類された優先度をもとに改修工事を計画するものとなりますが、直近5年間の整備事業としては、現在改修工事の実施を予定している「トイレ洋式化事業」「中学校特別教室空調化事業」を優先的に進めます。また、築年数の古い施設では標準的な更新年数をかなり経過した設備などもあるため、不具合等が生じた場合には、施設を安全な状態で維持し、健全な教育環境を保つために必要な最小限度の保全を図り、その後に予防保全（長寿命化）へ移行していくものとし、長寿命化改修事業については、「表 6-2 改修等の優先度分布（棟別）」の優先度の高いものから順に実施していきますが、優先度1及び優先度2に分類されている建物については、築年数も長く老朽化も著しいため、除却又は改築を実施することも視野に入れ検討進めることとし、優先度3及び優先度4に該当する建物の割合が多い学校から長寿命化改修を実施するものとし、また、本市の学校施設は築40年前後の建物が多く、ほとんどが優先度3及び優先度4に分類されますが、その中で関連計画や当該建物の立地、劣化状況を考慮した上で優先順位を決め、改修工事を実施します。

なお、給食センターについては、施工場所の決定後に設計を着手し、令和5（2023）年度から令和6（2024）年度にかけて改築工事を実施します。

■ 直近5年間の整備計画

事業名 \ 実施年度	R3年 (2021年)	R4年 (2022年)	R5年 (2023年)	R6年 (2024年)	R7年 (2025年)
除却・改築事業		実施設計	優先度1・優先度2の施設は 除却・改築を検討		
長寿命化改修事業			実施設計	優先度3・優先度4の 学校から実施	
トイレ洋式化事業	毎年度2～3校ずつの改修				
特別教室空調化事業	中学校 6校	※小学校は長寿命化事業の中で実施予定			
体育館LED化事業	R5年度までに実施				
給食センター改築事業		基本設計	工事実施		

図 6-3 直近の整備計画



2. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

本市の学校施設の築年数 40 年前後がほとんどであるため、本来であれば P.19「図 3-8 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）」のとおり、長寿命化改修工事を同時期（2022 年から 2024 年）に実施する必要がありますが、本市の厳しい財政状況を考慮し、長寿命化改修工事の後倒し及び改築工事の前倒しを検討し今後 40 年間の長寿命化による維持・更新コストの総額 321 億円を平準化します。（「図 6-4 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）平準化」参照）

平準化された今後 40 年間の整備計画としては、直近 4 年間は当初より予定していた整備事業（トイレ洋式化・特別教室空調化）を進め、以降 10 年間は長寿命化改修が中心となり、その後の 25 年間は改築が中心の整備となりますが、個々の学校施設の長寿命化だけでは限界があることから、財政とコストの乖離を埋めていくため、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取組みの方針を明確にする必要があります。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

※再掲 (P. 19) 図 3-8

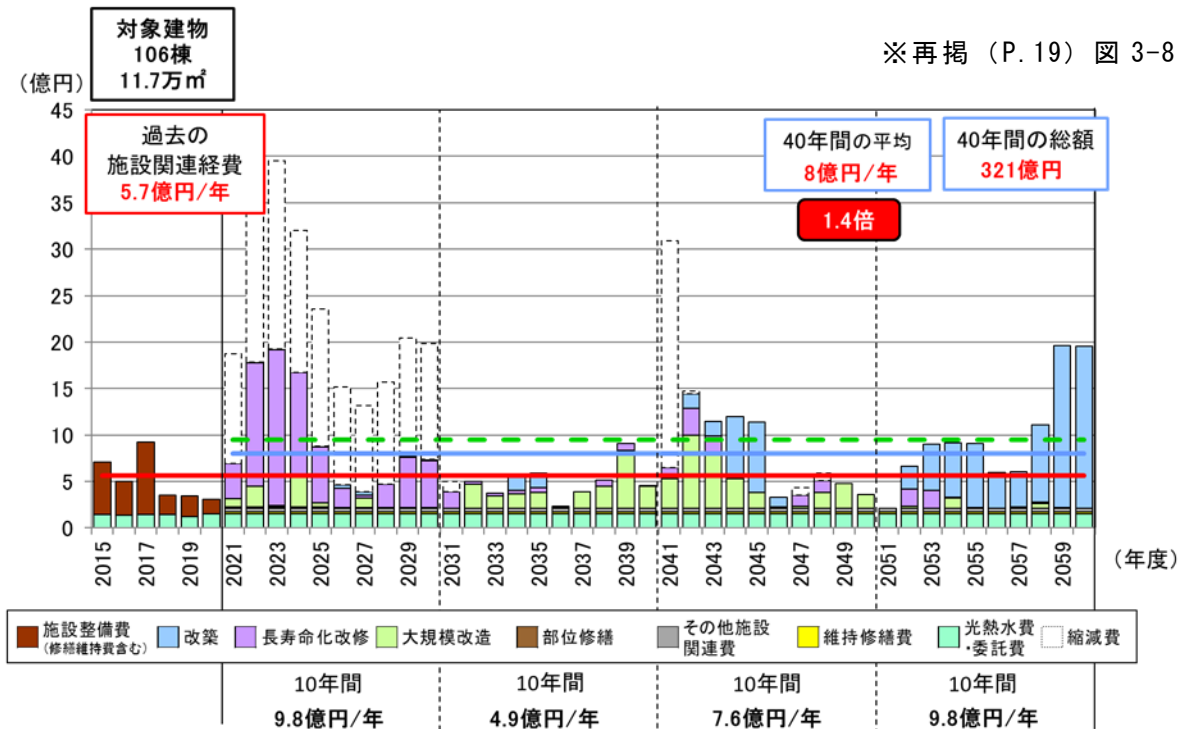
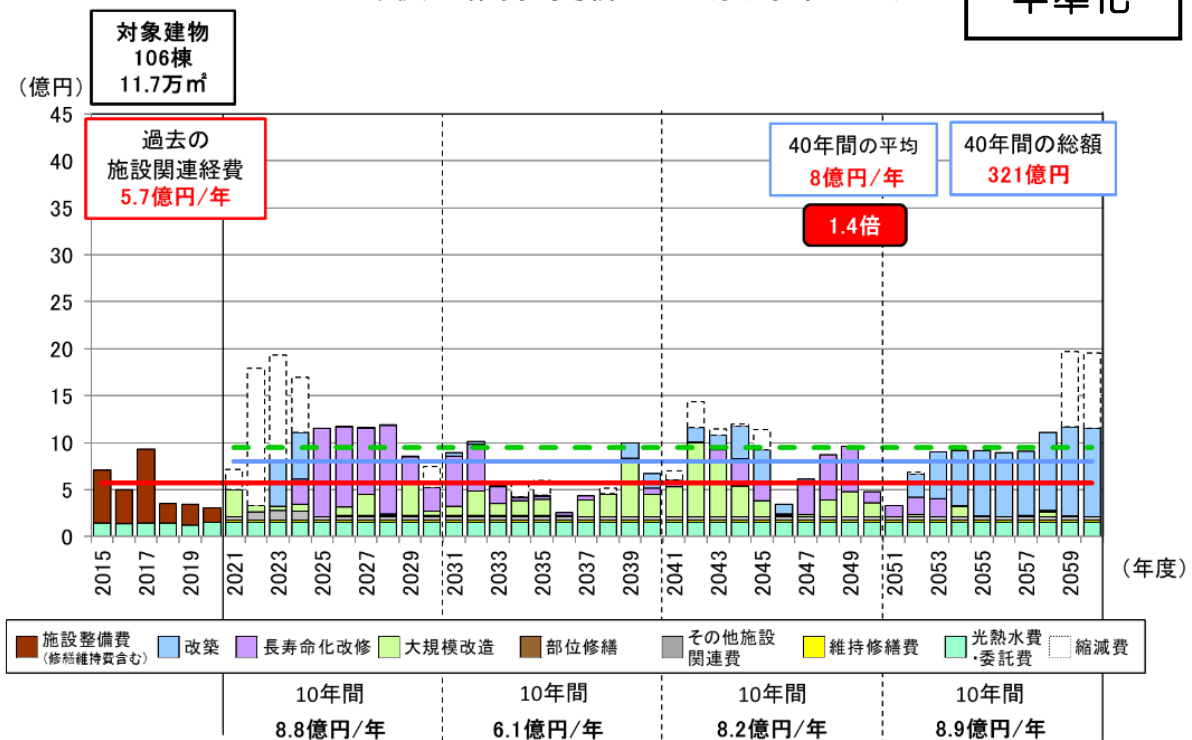


図 6-4 今後の維持・更新コスト (長寿命化型) 平準化

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

平準化



第 7 章 長寿命化計画の継続的運用方針

1. 情報基盤の整備と活用

本計画策定の際に取りまとめた点検・評価したデータをベースに、各施設の状態や修繕、機器等交換履歴、故障の発生状況及び改修工事の実績情報を蓄積していくとともに、定期的・日常的な安全点検等の結果も反映し、情報の一元化を図ることで、適切な施設管理を推進します。

2. 推進体制等の整備

学校施設は、学習・生活の場、地域交流の場、災害時の避難所としての機能を維持しつつ、市全体の財政状況や公共施設の在り方に対応しなければなりません。

そのため、本計画は学校施設管理の部署を中心に施設マネジメントを行うだけでなく、学校の管理者である学校長と連携して施設の状態把握に努めるとともに、市長部局の建築技師からの指導・助言や防災担当との連携強化を図り、市全体の施設情報の共有化や、効率的・効果的な公共施設等のマネジメントを総合的に推進する必要があります。

3. フォローアップ

学校施設の老朽化が進行する中、学校を取り巻く環境の変化、児童生徒数の推移等に対応するため、施設の状況と社会情勢等を的確に把握し計画に反映する必要があります。

本計画は、計画期間を 10 年間とし、「京丹後市総合計画（基本計画）」をはじめ「京丹後市公共施設等総合管理計画」、「京丹後市学校再配置基本計画」を踏まえたうえで、5 年を目途にフォローアップを行い、学校施設の点検・評価結果の更新や関係部局からの情報、社会情勢の変化や財政状況等を総合的に判断しながら計画の見直しを行います。



京丹後市教育委員会

令和 3 年 3 月 発行

京丹後市教育委員会事務局 教育総務課

〒629-2501 京都府京丹後市大宮町口大野 226 番地

電話 0772-69-0610 Fax 0772-68-9061